

## 秋の講演会

平成23年11月5日、長南浩人先生（筑波技術大学：准教授）をお迎えして秋の講演会が行われました。

今年も、大阪府社会福社会館を会場に、100人をこえる参加者で、会議室がいっぱいになりました。『聴覚障害児のリテラシーの実態とその指導』という題で講演をしていただきました。日々の指導にすぐに活用できそうなヒントがたくさんあり、非常に好評でした。参加していただいた方の感想を掲載して、講演の様子をお伝えします。



### 参加者の感想

・普段、子どもたちと接しているときは、見える問題点ばかりに注意を向けがちでした。しかし、見えない部分にも指導しなければならない点がたくさんあり、子どもの特性を知り、問題となっている現象の根底には、なにがあるかを考えることが大切であると感じました。講演を聞くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございます。

・誤答や結果を詳しく分析して、子どもが「どう間違っているのか。」「どこで間違ったのか。」を探っていくことの重要性を感じました。当り前のことであるのに、これまで、いかに自分が表面的にとらえていたかを痛感しました。また、制限コード、精密コードのお話を聞いて、指導場面で自分の説明の仕方を、今後気をつけなければと思いました。

・制限コードと精密コードの話で、自分の保育のあり方、声かけのしかたをふりかえりました。そう考えると、声かけがなんか貧弱で、色や形など見てわかる内容を話す制限コードばかりで、話しているのではないかと思いました。働きや役割など見てもわからない内容を話す精密コードで、豊かに説明したり、話しかけたりする教師の力を身につけたいと思いました。

・幼稚部を担当するものとして、日頃の実践に重ね合わせて、実践していることを理論づけるということだったのかと確認できました。5歳の坂を上れるための実践をしなければならぬと身の引き締まる思いになりました。長南先生のお話はとてもわかりやすく、お人柄といっしょにことばが届きました。もっと多くの職場の先生方と共有したいお話でした。

・今日は、先生のお話を聞くことで、自分が行っている保育の裏付けができました。いま、子どもたちに「考えさせる」働きかけと話しあい活動をすすめています。それが後にどのような力に結びつくかが明確になりました。また、視覚資料（絵カードなど）をどのように使うか、それを見直す必要も見えてきました。「思考を刺激するコミュニケーション」を常にそれを頭に置きつつ、日々実践を重ねたいと思います。あっという間の3時間でした。もっと先生のお話をききたいと思う、実践にすぐ役立つ内容でした。ありがとうございます。

・子どもに分かることばで、伝えることが習慣になっていたもので、反省させられました。子どもの思考を刺激することの大切さを意識していこうと思いました。

・お話を伺いながら、理解をさせるための視覚的資料（補助）を多用しすぎることで、子ども自身が考えて想像するような抽象レベルの思考を行う機会を失っているかも知れないという危険感を、非常に現実的なものとして捉えることができました。できないだろうと思うことで、する機会を奪ってしまう、逆マタイ効果の積み重ねの怖さを感じました。

・「日本語」の指導は難しいと改めて思いました。自分が手話で文章を表現するときには、文脈より、前後に書かれていない情報を補完します。それで意味は通じやすくなるけど、子どもが日本語とむきあったときに、文章から書かれていない情報を補って考えるという機会をうばっているのかもしれない。今後、子どもたちと接するときに、気をつけようと思うことがたくさんありました。参考になるお話、ありがとうございます。

・視覚探索による単純思考で説明ができそうな、子どもの解答に多く出会ってきたなと感じます。そういう子どもたちに”読みの方式を与える”（考え方を共になぞる）という考え方は、ユニバーサルデザイン授業にも通じるものだと思います。①書かれていないことを文脈から補う②書かれていることから類推する。③その間、記憶のテーブルで情報を操作する、というような力が必要になります。これまで、言語知識（構文や語彙）の拙さばかり強調してきたが、9歳のかべを破るには文脈に沿った類推思考を伸ばすような指導が必要なのではないか。そして9歳より前の段階から思考力を伸ばすことを視野に入れた指導が必要ということになります。そのために、記憶・類推・統合といった認知力を鍛える必要があることがわかりました。思考を刺激するコミュニケーションをテーマに持って、子どもを見たり、自分の授業を組み立てたりしていきたいです。作文指導もよいアドバイスをいただいたので、さっそくやります。



事後集録を作成しています。詳しい講演内容については、そちらをご覧ください。

## 今後の活動計画

今後の予定は下記の通りです。

平成23年12月 3日（土）事例検討会（大阪府立生野聴覚支援学校）

平成24年 1月28日（金）第3回代表委員会および専門研修会（神戸聴覚支援学校）

29日（土）冬の学習会（新長田勤労市民センター）

『見える日本語、見せる日本語—可視化させた日本語文法—』

江副 隆秀先生（学校法人江副学園 新宿日本語学校 校長）

3月中旬 集録第13号発行・機関誌39号発行



近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 中井 弘征

〒639-1122

TEL：0743-56-2921

奈良県大和郡山市丹後庄町456

FAX：0743-56-8833

奈良県立ろう学校内

メール：kinki02062@hotmail.co.jp